

ふるさとネット 総会で方針を確認

本格再生に向けた活動を継続



活動方針などを話し合ったふるさとネットの総会（4月21日）

村議会 新体制で開催

平成24年年度第1回三宅村議会定例会は、3月12日開会した。桜田新村長の施策方針（広報みやけ参照）と全村議八人が一般質問を行った。

発言順では、浅沼徳広氏…人工透析など3項目、平川大作氏…公約実現など7項目、彦坂明伸氏…阿古地区農業用水対策など5項目、上松幸男氏…桜田村政の公約など5項目、長谷川一也氏…持続可能なモデルアイランドなど、谷寿文氏…総合計画など4項目、長谷川崇氏…村長の所信表明、平野辰昇氏…村長の選挙公約。

なお議長には、平野辰昇氏が選任された。

ふるさとネットは、昨年度の活動方針の基本を次の二点に定めた。①長期噴火災害の課題を検証し島民本位の本格的な再生への取り組みを！②ふるさとネット5年間の取り組みを総括して重点的な活動を目指す。本年度もこの柱を継続したい。

2月に村長・村議会選挙があった。島内に漂っていた帰島後の閉塞感を一歩でも打開する契機になればと期待していた。村民の選挙は、村長選挙では現職を326票引き離し929票（47%）で桜田昭正氏を選

び、また村議も新人3候補が得票総数の59%も占め、上位当選した。また

さし今回の選挙は、これまでの村政に変化を求め「課題を検証し島民本位の再生」の意思を示した。村政と島民が一体となり汗をかき、且つ痛みも分かち合う土壌をつくりあげたい。なぜなら三宅島は、世界に類を見ない活火山島である。自然災害に向き合って生活をすることは、そこに住む人々の宿命である。想像を超える怒りに似

たすまじい自然界の破壊と再生の繰り返しに人々は悲しみ、また励まされて生きている。この激しく、豊かな自然環境を糧に私たちは、子孫孫まで引き継がなくてはならない。

具体的には次の7点を

- 1 在京者・高濃度地区アンケートに基づき要望書を行政機関に提出し実現に努力する。
- 2 高濃度地区の早期再生のためにさまざまな活動を行う。
- 3 在京者の高齢化・加齢など深刻となつていく。訪問活動も方法を検討し点検をしながら取り組む。
- 4 「三宅島新報」「ふるさとだより」、ホームページ、村の情報提供など継続する。
- 5 三宅島の現状発信のためマスコミ取材協力、大学研究機関、日本復興学会、各地の被災地との交流を行う。
- 6 人工透析機早期導入。三宅島再生の島内活動を発展させるために、組織活動の整備、高齢化対策、文化活動などによりコミュニケーションを強化。その他、必要に応じて活動を行う。

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

- 危機管理勉強会
三宅島の復興支援を考える報告・交流会
日時：5月7日（月）
場所：東京税理士会館
- 神楽坂青空フェスタ
日時：5月20日（日）
場所：神楽坂商店街
- 第28回世話人会開催
日時：6月16日（土）
場所：巣鴨ルノアール会議室
- ご寄付のお願い
郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

【三宅島ふるさとネット事務局】

郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：大石・加藤

人生に刻まれた軌跡

きっかけは番組のイベント

三宅島との出会い

青い空、真綿のように浮かぶ白い雲、波を切ってトビウオが飛ぶ碧い海、そして白とブルーが鮮やかなグアジサイと濃い緑に包まれた三宅島。一方、そんな穏やかな表情ばかりではなく、突然、近づく船さえ港に寄せ付けない台風のときの嵐、また不思議とおよそ20年周期で牙をむく雄山の噴火など、太平洋に浮かぶ火山島は、四季折々に、また日々の営みの中で、めまぐるしく変化する姿を、私たちに見せてくれます。

その三宅島と私の初め



ての接点は、あるイベントのラジオ生放送を担当したことでした。1970年、昭和45年の4月に文化放送に入社した私は新人アナウンサーとして、ニュースや

CM、レポートなどの研修に追われながら充実した毎日を送っていました。昭和39年の東京オリンピックをきっかけに日本全国が高度経済成長の右肩上がりの真只中で、貧しい暮らしの中でも閉塞感はなく、それぞれが夢を描いていた時代、文化放送は、当時、四谷に本社がありました。

島からスターの歌声を

それぞれの職場で働く人々の楽しみのひとつが、ラジオから流れるお昼の情報娯楽ワイド番組を聞くことでした。仕事をしながらでも聞くことができたため、そんな番組のひとつに『ダイナミックリーダー歌謡曲でいこう』があり、こ

の番組が企画した『スターと一緒に三宅島で遊ぼう』という夏休みのイベントが開催されることになりました。

歌手のヒデとロザンナやダ・カーポらが東京竹芝桟橋から出航する船に乗って、三宅島でファンと楽しく集うことになりました。当時、このイベントに参加したいという応募者の中から、抽選で選ばれた聴取者が、三宅島の民宿に分宿して楽しんだという記録が残されています。

このイベントに同行したのが私で、三宅島から昼の生放送にレポートしながら歌手の皆さんの歌をお届けしたのです。

変わらない住民の心根

1970年代に幾度となく訪問した三宅島で、民宿の人、港関係の人、みやげ物店など多くの住民の方々も、みんな良い人たちがばかりに出会え、帰りの船の中の思い出話は、水の色が七色に変化するといわれている新漣池(きれいな池で

した)や多くの鳥が集まりバードアイランドを象徴するような大路池など、自然の美しさと朝の空気のおいしさ、やさしく接してくれた島の人々のことでした。残念ながら歌手のヒデさんは若くして他界されましたが、おとし文化放送でお会いしたロザンナさんに三宅島のことを話しましたら、とてもなつかしがっていました。またダ・カーポのお二人とも連絡を取り合っていますが、その後、三宅島の歌も歌っていますし、よく覚えていると話してくれました。時代は変わり、民宿も経営者の代替わりがあるなど変化がみられます。まして、2000年の噴火活動以来、長期にわたる島外での避難生活と現在でも続く火山ガス放出による帰宅困難者などで、島のコミュニケーション活動が思うように進まないと聞いています。しかし住民の皆さんのやさしい心根はいつの時代になっても変わらないことでしょう。不死鳥の如く。

「三宅島と私」思い出を語る

バードアイランドは不死鳥のうぐい

文化放送で防災キャスターを務める高橋民夫さん。高橋さんは、出演していた番組の企画で三宅島に出会って以降の様々な思い出や、復興に対する思いを熱く語ってくださいました。

前代未聞の噴火災害を乗り越えて

文化放送防災キャスター 高橋民夫さん

1980年から減災・免災のために

日本人の絆を信じて

果たした親友との再会

そのスターらと一緒に三宅島に行ったとき、私はそこで一人の大切な友人に会いました。

高校の同級生で親友の佐野正明さんです。三宅島の方々の中には、彼の名前を知っているという人もかなりいらつしやるかも知れません。そう、私が社会人になった同じ年に都立高校の教員になって最初の赴任先の三宅高等学校で教壇に立っていた佐野先生です。訪れたときは夏休みでしたが、新米教師であつた上、クラ



避難中の子どもたちにテレフォンカードを送る活動に賛同してくださった方々

あつた上、クラ

プロフィール



- ・文化放送防災キャスター
- ・S 22年4月2日神奈川県寒川町生まれ
- ・S 45年3月 早稲田大学卒業 同年4月 文化放送アナウンサー入社
- ・H 19年 定年退職も同職場勤務で現在に至る
- ・市民防災研究所評議員、および日本災害情報学会会員

ブ活動などで大忙しの彼に会うことができたのは夕飯時のわずかな時間。それでもあれやこれやなつかしい話に花が咲き、旧交を温めることができました。

放送局の仕事で偶然にも三宅島を訪問することができたということ、三宅島の存在が他の島々と比べ全く違うものになり、その後のお付き合いの違いを決定付けてくれました。

佐藤就之会長と出会う

私は1980年に文化放送防災キャスターになり、地震・津波災害の教訓を学び、発生時のスタジオでの放送内容を検討するとともに、防災・減災の講演などを続けてまいりました。

人の優しさにふれて

同時に火山の噴火災害に関わる備えなども続けてきましたが、1986年11月の伊豆大島の割れ目噴火、1991年6月の雲仙普賢岳の火砕流災害、そして2000年6月に噴火を始め、9月2日から3日間で全島民・島外避難を余儀なくされ、2005年2月に帰島できるまで前代未聞の避難生活を強いられた三宅島噴火災害のさなかで交流が始まった三宅島ふるさと再生ネットワークの佐藤会長とは不思議とうまが合い、現在に至っています。

2001年1月17日、あの阪神・淡路大震災からちょうど6年目の日、私は文化放送2階にあるスタジオで「防災特番」を放送していました。

その中で東京・三宅島の全島民・島外避難について話を展開したところ、ゲストの池上三喜子さんが友人の子どもの話として、秋川高校の校舎などを借りて勉強している子どもたちは親と離れて生活している為に話をするのに公衆電話を使うしかなく、不自由な生活をしていると伝えてくれました。

そのとき私は咄嗟に、この子どもたちが親とたくさん話しができるようにとの思いから、ラジオをお聞きの皆さんにテレフォンカードをお寄せいただけないかと呼びかけただけなのに、放送終了後から文化放送に問い合わせが殺到、やがて避難している子どもたちに渡してあげてくださいとメッセージを添えて次から次へと送ってください、その数は膨大なものとなりました。

ふるさとネット 平成23年度活動報告

在京者等へのアンケート 東北支援も

平成23年度、ふるさとネットはこれまでの訪問活動などに加え、在京者や高濃度地区住民への3回目となるアンケートや東北でのボランティア活動を実施するなど、さらに活動の幅を広げた。

①情報活動

「三宅島新報」及び「ふるさとだより」は、隔月で発行することができた。ホームページの更新も定期的に行うことができた。

②訪問活動

事務局チーム、DTP

③支援層と交流の広がり

3・11東日本大震災の影響で、5月の青空フェスタは中止となったものの、10月には開催された。明日葉の天ぷらといった定番メニューに加え、つみれ汁の実演販売やおこわも販売したところ、大好評だった。事務局とDTPで協力し、今



10月に行われた神楽坂の青空フェスタで

Aチーム、酒井副会長チームの3チームに分かれ、活動した。日程が合わなかったり連絡がつかなかったりと、定期的に行うことが難しかった。

後も続けていきたい。島内における「島市」出店の売り上げは、高齢者支援に活用した。8月、12月、3月には、DTPAメンバーと共に岩手県宮古市などにボランティア活動に参加させていただいた。④ご寄付・活動等の協力今年度も皆さまからの温かいご支援をいただき、三宅島新報の発行、訪問活動、他被災地との交流など、活動を広げることができた。感謝申し上げます。また、会計事務として有本香保子が就任した。

⑤アンケート

大妻女子大学・大学院人間文化研究科・人間関係学部の中川剛史教授のご協力で3回の帰国したくも帰れない在京島民のアンケートを行った。3回目は、2011年10月、11月であったが坪田高濃度地区の在京者と在島者・帰宅者を含めた。その結果は、「三宅島新報・隔月発行の平成24年1月1日第37号と関連して「ふるさとだより」26・27号に紹介している。第3回目アンケートに示した中川先生の三回分の集計と比較考察を踏まえて第3次要望書を提出予定である。

【ご寄付者名】

中島修平様、青谷知己様、増田奈穂子様、今井家子様、遠山定雄様、遠藤芙美子様、齋藤實様、小曾寿美子様、柚木裕子様、東京七島新聞様、山下文子様、浅沼重吉様、小田原陽一郎様、金子智様、渋谷和久様、櫻田薫様、四谷信子様、岩渕強様、島市売上、菅野善一郎様、谷原和憲様、吉田信行様、横井和之様、南海タイムズ社様、古舘秀也様、佐藤宗ノ子様（2月1日～3月31日）

多数の皆様のご寄付、ありがとうございました。

編集後記

先月21日、巣鴨で、平成24年度総会が行われ、協力者も参加しました。今年度も、少しでもお役に立てるよう、訪問活動や新報の編集作

業など、私たちにできることを、お手伝いさせていただきます。また、東北へのボランティア活動も、被災地の繋がりを大切にしながら継続していきたいと考えています。（DTPA一同）

23年度決算・24年度予算

科目	予算	決算	2012年度予算
寄付金	500,000	1,277,300	600,000
活動収入	200,000	85,378	200,000
雑収入	40,000	0	20,000
前期繰越金	214,809	214,809	241,354
収入合計	954,809	1,577,487	1,061,354

科目	予算	決算	2012年度予算
広報費	550,000	943,284	660,000
訪問活動費	40,000	21,861	20,000
活動費	200,000	185,002	230,000
会議費	25,000	62,230	30,000
事務備品費	20,000	2,582	10,000
通信費	60,000	58,074	40,000
渉外費	50,000	47,120	60,000
雑支出	9,809	15,980	11,354
支出計	954,809	1,336,133	1,061,354
次期繰越金	0	241,354	0